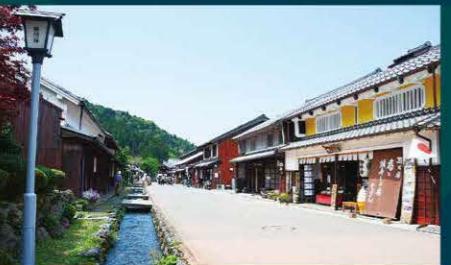


ふくいの文化財 重要伝統的建造物群保存地区

全国に残る城下町や宿場町、門前町など歴史的な町並みを保存するため、国がその価値が高いと認めた地区を選定します。今庄宿以外の県内の重伝建地区は次の2地区です。

熊川宿(若狭町)

宿場町
平成8年7月選定

小浜西組(小浜市)

商家町・茶屋町
平成20年6月選定

江戸時代に小浜城下の町人町を東、中、西の3つに編成した際の西組のほぼ全域。中世の港町から近世の城下町へと発展し、町の拡大に伴い整備された近世前期街路の構成と近世末期の地割りがよく残っています。商家町、茶屋町、寺町が独自の町並みを形成し、城下町の景観を今に伝えています。

県のホームページ「福井の文化財」で
県内の文化財を紹介しています。



知事メッセージ みんなと一緒に
**魅力ある福井の文化財を
守り、活用し、発信します**

文化は豊かな社会づくりの基盤です。長い歴史の中で先人達が培ってきた歴史・文化を大切に保存し、次代へ引き継いでいきます。また、それらをネットワーク化して発信し、観光振興や地域づくりに活用していきます。

知事 杉本 達治

の支援を行っています。
現在進めている国指定の
重要文化財「大安禪寺」
(福井市)の修復工事は、
平成30年から令和11年まで
12カ年、国の補助も含め
総事業費約22億円とい
う、全国的にも大規模な
事業です。このように古
い建物の修理には多くの費用と時間
が必要となるため、早期に劣化部分

を発見し小規模な修理で対応できるよう、
文化財保護指導委員によるパトロールを行っています。この
パトロールを小中学生による文化財見学などの学習の場として活用したり、専門家による文化財についてのオンライン出前授業を行ったりして、次世代

の担い手育成にも努めています。
また文化財をまちづくりに活用するため、今年度から「歴史的建造物等活用コンシェルジュプロジェクト」を開始。県内の文化的・歴史的な建造物について、写真撮影や結婚式などに利用可能な物件をリスト化し、活用を希望する人とつなげるウェブサイトを構築します。現在、モ

デルとなる事業を募集し開催経費の



今庄宿の酒店を訪れる杉本知事



文化財の専門家による出前授業



名勝に指定される湯尾峠



修復工事中の大安禪寺

古くから「越山若水」と呼ばれ豊かな自然に恵まれた福井県では、各地で優れた文化が育まれてきました。貴重な文化財は大切に受け継がれ、ふるさとの誇りとなっています。

5月21日、国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）として、南越前町今庄宿が選定されたことが決定しました。今庄宿は江戸時代に宿場町として栄え、昔ながらの地割りや重厚感のある町家が建ち並ぶ地区。重伝建は県内では3例目、嶺北では初めてになります。

同地区では10年以上前から住民有志による「今庄旅籠塾」が町並みの保全に努めてきました。特に古民家の改修には高校生や大学生も参加し、改修後の活用方法も一緒に検討。NPO法人今庄旅籠塾の理事長で今庄宿まちづくり協議会副会長の細川治さんは、「目指すのは持続可能な

補助も行っています。

県では県内の貴重な文化財を守るために、文化財指定を推進するとともに、地域の活性化に役立てていきます。

また6月18日には、同町の湯尾峠が、国指定文化財の名勝「おくのほそ道の風景地」に追加指定されることが決定しています。

県ではこうした歴史・文化遺産の保存や活用、次世代の担い手の育成

NPO法人「今庄旅籠塾」
理事長の細川治さん

町並みと暮らし。古い建物を活かし未来につなげるのは若い力です」と言います。古民家改修に関わった学生には、その後も様子を見に訪れたり、郷里に戻って同様の活動をする人も多く、今回の重伝建選定が町並み保存のさらなる追い風になると期待しています。

文化財を守り、親しむ。